

國
民
策

486
4
288

特
5

039516-000-5

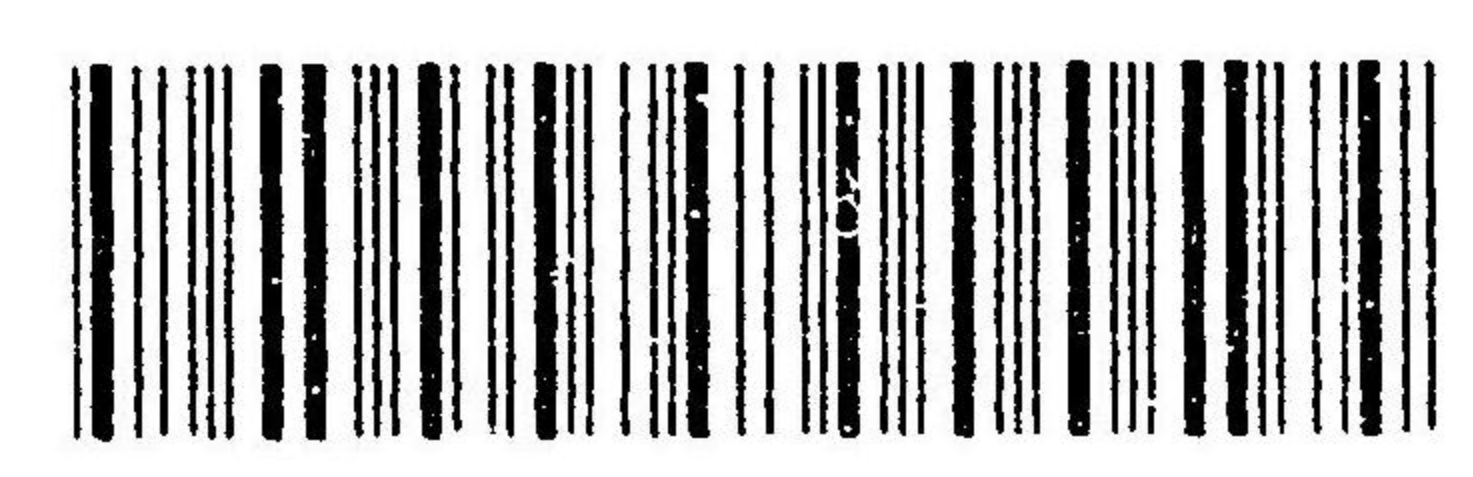
特30-527

国民策

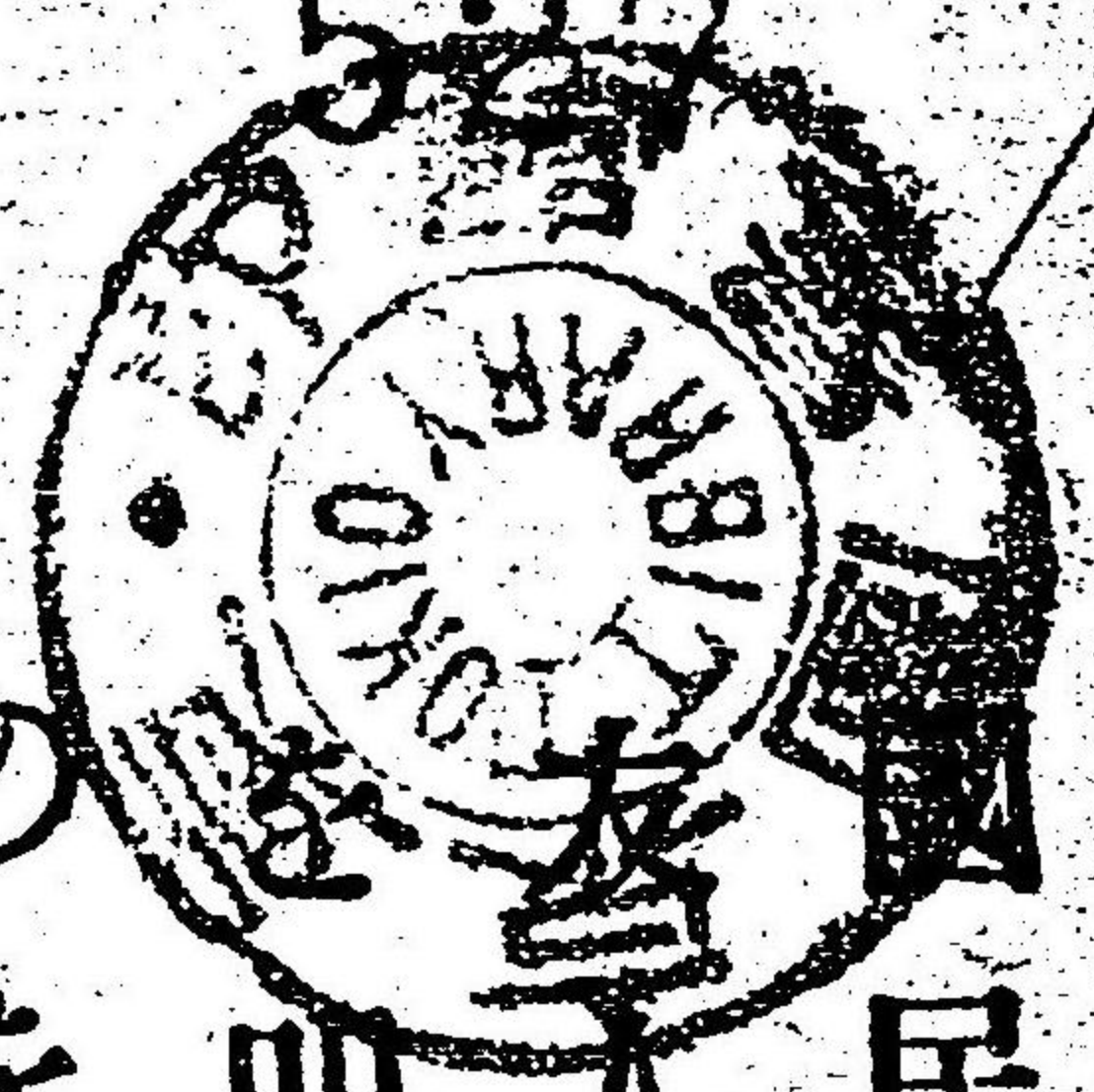
佚名氏/著

M22.12

BDA-0070

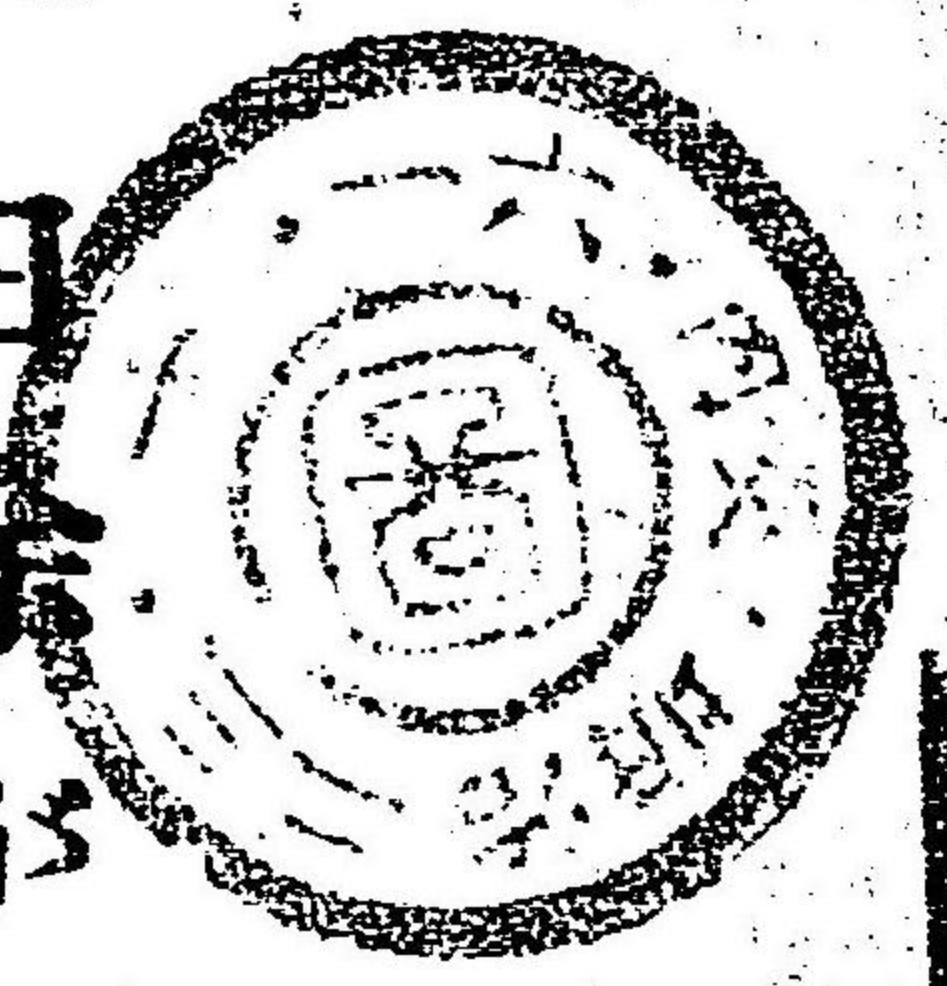


特30/1987
527
23



民策序

大失名氏の希世の奇人なり一日余が門
叩き関笑進み來て曰く余國民策なるもの
を草せり因て今日序を求めんと欲して
來れり請ふ速に序せよ余笑て曰く世の著
書家の序を求むるものハ多くハ其書の價
を得んとするものなれば之を高名大家に
求む余の如きは即一布衣のみ何ぞ其價を
輕輕するを得ん願くハ之を他人に謀れど
氏諾せず因て其書を閱するよ云ふ所皆世



を諷し時を嘲けり一讀喫驚せざるなり蓋
 し之れ氏が常々に懐抱せる滿腔の鬱氣溢
 れて其泡沫を飛せしものか余と雖ども亦
 其書の奇に驚かざるなり即ち呼で曰く五
 世界中復た斯の如き書あるを見ず眞よ之
 れ希世の奇書と云ふべしと氏眞面目に端
 坐して曰く然り余元より之を信ず之の言
 以て我書の序と爲すに足れり請ふ之を記
 るせ余大笑して曰く奇人の奇書に序する
 よ奇言ある亦良からずやと終る記して與

ふ焉

巳丑暢月

獨逸國文學士

獨尊居士誌

自序

國民策ハ出來たハ實際之を行ふ人ありや
無きやハ知らず然しなから萬一あつたら
非凡の人た萬々無い所で國民策ハ賣藥策
となるばかり賣藥策とい何の事藥にもあ
らあい其代り毒にもあらぬと云ふ事た

己丑十二月

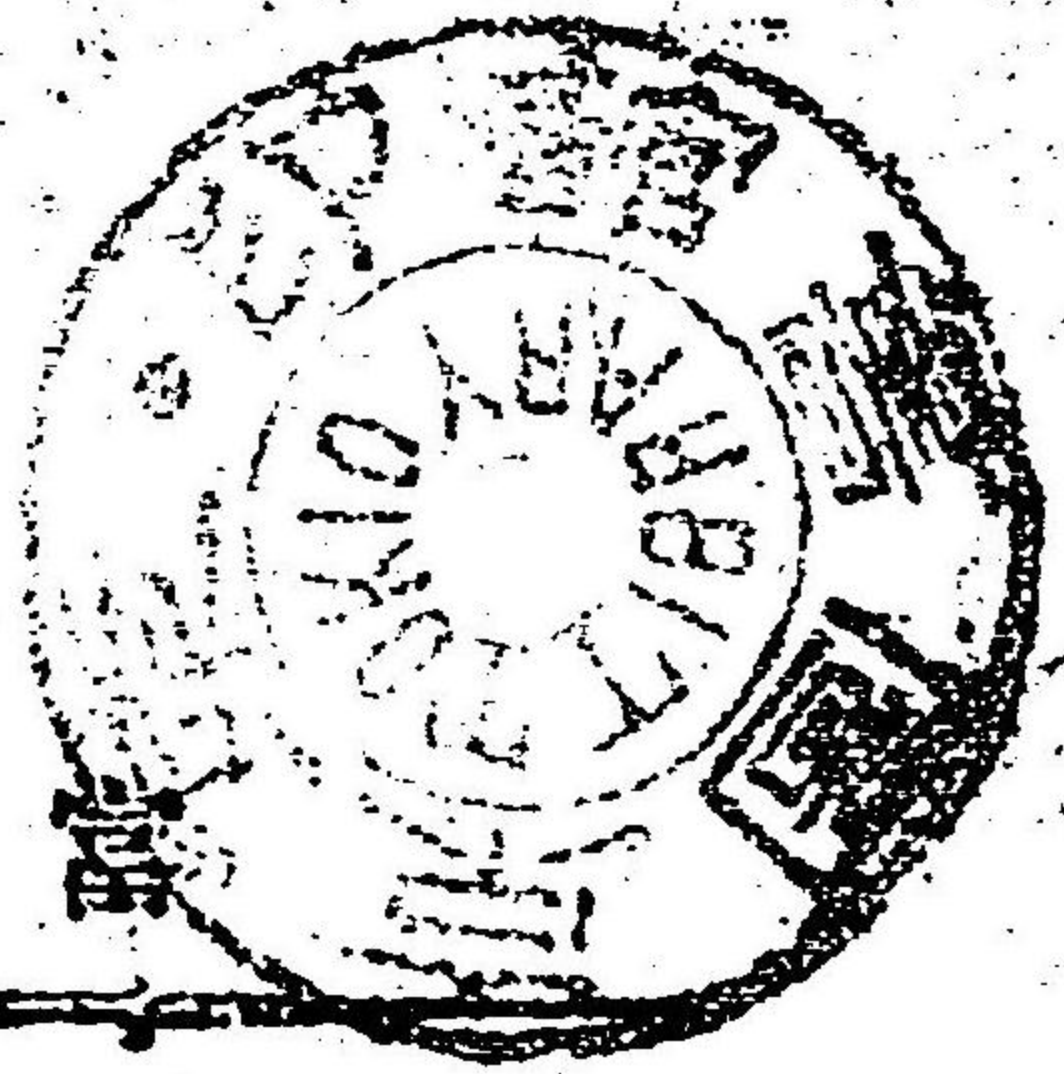
不動如山

目錄

富國策	強兵策
華族策	士族策
書生策	僧侶策
商人策	農民策
選舉策	被選策
教育策	遠征策
處世策	

附錄

嗚呼二億萬圓を如何せん



策 國 策

國民策

富國策

失名氏 著

如何も美人が居ても美酒が有つても天井の板けて雨が漏り壁土の落ちて
風が吹込み冬の朝も寒さを防ぐに足らず夏の日も熱つさを避くる事が出
来ない様な家に居て何の樂しき事があるものか。左りどて結構な家お
入りたぬおの錢がなし扱どをまよをかど云ふ日になりて初めて金の必用
が分る左れば一國も其通り如何も陸軍の軍人が百万隊をなして居るとて
も海軍の軍艦が千万林の如くゐるとても機械でない人間が働く事なれば
日々喰込む米代は仇や愚かな者でな「因りて之れが供給お満つるが爲め
よの金穀が入用なり若し金穀が充分あれば兵隊も肥へて強くなり鐵砲も
多く精工の物が出来るから敵國の攻め込む憂ひいなくなり國內の民が安

心して農業や商業や工業や各を盛ふ爲す事が出来る左れば富國の策を講ぜんに強兵策を爲さざる可らず強兵策を爲す所の金穀策所謂富國策を爲さねばならぬなり言は換れば富國策の強兵策から初め強兵策の富國策から初めよ之れ、むづかしい丁度例て見れば生きて居るもの喰ねばならぬ喰ふに生きて居なけりやならぬと云ふと同様で二つの中一つを欠く事の出来ない又どちらを先おして能かも、覺えない左れど喰ねば生きて居られぬ金穀なければ海陸軍も置ない道理先づ第一富國策から講じずばなるまい富國策を唱ふる者も多いが大抵の物産を盛ふして外國を輸出するか或は國內の用度を儉約する位を以て無上の方法となしたる様なり夫れもよし然しながらそれ等あての今の時に手ぬるし況して國産を盛ふると云た所で一つ外出来ないものを俄お十にする譯も行まい又用度を儉約するとしても今迄十かゝつたのを忽に一つにする譯も

も行くまい夫れより茲お一番早道にて上方法とも云ふ可き事がある。それいなんだ一時に東京大坂廣嶋仙臺の四ヶ所に各大博覽會を起すなり大博覽會を興すと云へば、むづかしい様なれども何もむづかしひ事い東京なら東京、大坂なら大坂と云ふ市を以て直ぐ博覽會となす即ち町々の家々が博覽會となるのだ其他の公園お美術館との農工館とか何々とか云ふ様なものを造るばかりあり唯此お一つ肝腎なの其場中を見るに何れも三日と四日の場内に泊まらねばならぬ事となし「ホテル」より休所まで凡て美麗お或は日本風或は西洋風又或るもの支那朝鮮と云ふ様な風お造りそれ／＼の僕や下婢等をも備へ附く可し扱どをするか此から各國の帝王を招くなり其勢なれば各國の諸新聞も頻に日本の事を書き立ると同時お其紳士商人などの日本お入り込むもの數かざりなからん此多數の人間が土産物を買ふやら商賣品として取引の端を開くやら其又序お

諸方を見物するやら何ふや蚊ふて金銀を使ふ事賦に木の葉の散る如くな
らんおの我の坐おして萬億億億攫みこむ事が出来るのみならず夫れより
と云ふものゝ世界各國お日本の名の轟く事商業の道の廣ろまること農工
の盛になること人智の頓に開化すること又金お出来るから海陸軍も整ふ
で強くなる事受合なり然る所で其博覽會設立資本などをするかと云ふに
別お出所もないから之れは國民全体で負擔して一時限り特別税となして
徵集す可し最も徵集した所で前の如き次第なれば取り返しの二三年の後
ちお直ぐ附くのみならず多くの利子をさへ産む可し又人民も出す時にお
上へ出して取る時の外國人よりする事なれば心持のよき事例へは醉覺の
水の如く又江戸兒の朝浴がへりの如し然るを若し之れをだふ爲さてこの
くさくさ農だ工だ商だを騒ぐばかりで到底漢法醫者の藥油たるを
免ぬが難ぬぞ

強兵策

全國皆な兵の今日なれば敢て現役のものばかりが兵隊でない去れば一時
事あれば我等も鐵砲を擔いでどしどし出かける決心が無ければならぬ
夫れたのお平常身体が弱くて仕方がないから一國の氣風をして尙武主
義おまなければならぬ小學校から中學大學迄の何れも軍律の式お従はし
むるがよし又私立學校なぞにても各々一定の記號を附けて「ステツキ」な
り鐵扇なりを捻ねくらせ議論で敗たら腕力で來いど云ふ様な意氣込めさ
せ日曜大祭などには近郊で運動會を開くなり又の遠足を試らましむるな
りして各學校競て生徒の氣概あるものを造り出す様おなし又全國の有志
者の大道演説なり木屋演説なり毎日の様おまやべり立て、外交の事を論
ずるやら又の我國古來の國威を海外お響るかせし事を話すやらして當路
者の爲めお注意を加へ國民の爲めお愛國心を發達せしめよ勿論男子の凡

て輕服を着け活潑に世を渡るべし今の時節の趨ふ「ハンカチーフ」で喉を
巻くやら「レスピレーター」で口を閉ぐやら目鏡で砂をよけ二重まはして寒
さをしのぎ有りもしないで人力車に乗る様な人間の極く不名譽のもの
男でなしと云ひはやさしめ若し途中で斯んな者も出會へば嘲けり散らか
す様な風習となし又少年のくせも矢場に入り込んだり芳原を索見したり
する様なものも片つばしから拳兒の二つ三つも喰らはせ之を耻かしめて
歸へす可し又老若を問はず馬に乗る二輪車を馳せ大弓、角力、射的、擊劍、
柔術、やをろく戰闘、繩引、球なげ、高飛び、争走、などの遊技を常に爲す可
しそれから婦女を教育するものも充分軍人の敬す可きを知らしめ軍人の
戰死するものを祭る爲め又其負傷を看護する爲め常に常々慈善會を開
き収入金を以て死者の招魂祭をなし又患者を慰さむるの用も供するが
よし扱斯ふ云ふ風もなると全國の人民も總べて國家の爲めに身命を抛る

事を榮譽となすに至るべし斯かる人民が自ら新陳現役兵となれば軍自ら
強からざるのなく氣自ら世界を吞まざるのなし左れば才子氣取りの遊治
郎なぞの勿論北海道までも放逐して「アイノ」と共に鮭でも取るがよし

華族策

絹物ぐるみててれつと澄まし物見遊山よ日を暮らす其中のい家令や家扶
が、い様ふやれ侈商法の爲だの、それ何のと云て彼方へも金を出し此方
へも金を出し其實彼奴等が問てい様ふするのを存知なく終にの坐て
居る邸まで町人の手に入てままつたと云ふ様な時あつて初めて驚かる
い華族様もあらる様なり之れと云ふも畢竟自分で自分の身の處置方を
知らざるも基づくものならん眞に侈氣の毒の至りと云ふ可し最も劇烈な
行けい華族なぞの
如何なれば斯く云ふぞ今の世の中い華族の
何の

り出するにあらずや吾等人民の全國の華族を

何とたまたまらぬ事ならずや世界各國そんな

二つと有るも

のと併しながら又そを一概にも云はれぬ彼等の祖先の皆な身命も吝まらず力を盡し明治維新の年に至るまで何れも地方分權の責ふ當りしものなればなり其祖先の功績あればこそ一朝にして之を平民同等ならしむるも施政者の忍ばざる所からして之に相應せる報酬を與へられたる者なれば吾等も之を以て強ち無理といせず又何も小言の云はぬなり然し華族おして自分の家を家令や家扶お減されるも知らずうか／＼して居ると云ふ者が時々あるからして世人の華族の昔の功を忘れ一般に之を馬鹿視するに至るも又之無理ならぬ事ならずや附ての華族の爲めに謀るも各位も其祖先の鎗をつ取て馬かけらせし時の事を思ひ出されよ其時分のみ東も敵西

華族策

華族策

も敵南も北も己が味方とてい無き中に立ちて雌雄を争れしぞ殊勝なれ去れば或の英雄とも呼ばれ豪傑とも稱せらるゝに至りしなり然るも今の有様何と祖先お耻づかしからずや願くの各位も今より憤いめされ再び戦争お出でられたる心持となりて舊藩士族を集め各舊領地お歸りて國産の大製造所を設立すること其からん各位が自ら社長とあり盡力されなば舊士族の喜ぶ事一方ならず之れ亦骨を粉にする迄に働く可し、そして各位よ昔の鐵血の戦争なりしも今日の智略の戦争なる事を腦お記るし競て精製の國産を製出するお勤められよ去れば海外貿易の道も盛ん、國富み民強くなり上の即ち國力を養成し以て忠義の臣となり下の即ち舊藩士族の飢寒を救ふに至り以て恩愛の主となる可し若し又舊領歸りの製造なぞの賤しきに似て非所好なりと云はるゝならば花の都にか住てもよし又仕事も敢て製造物ばかりとも限ざらぬ金を山から堀り出しては鹽を海からい

り出してよい其外銀行でも鐵道事業でもお好み次第何なりとも爲て頂
戴そをすれば初めて華族の花を開く可く又華族の名に反むかざるに至る
可し唯だ月と酒と艶つばい妓ばかりをお友達となされて困ると申す事
ですと申すも昔の事今でいそんな方々の鐘と太鼓でも探がし當らぬ

士族策

なばかりで根の小さいの士族の作た大根、それと涉當人も同様でやれ
何縣士族何府士族と麗い／＼書き立つれども其實の昔日己が奴僕視した
る町人共が金持で自分の其日暮しにさへ差し支かへるとい何と氣の毒千
萬ならずや尤も中おの随分幸福に世の中に似有と出て昔のお目見へさへ
出来ぬ舊藩主を今でいぞろつと下目に見るもある可し然し一概云へば
金が無くて貧乏で唯氣位ばかり高いもの士族なり、それのそのはず昔
なら武士の食のねど高揚杖と澄まし込だものなれば其習で今さら媚も諂

士族策

も出来ず矢張り困つたどばかりで困て居るなり昔の士族の子弟の禮儀も
正しき者なりしが今でい夫れ所でない學校へも通ふ事の充分出来ぬと云
ふ有様さて／＼困た事だ士族たるもの何と一と憤發する見込の涉座らぬ
か第一の舊藩主を説て地方の國産製造所を設立せしむる事なり夫れさへ
行けば上々なり若し不幸にして夫れが行ないれば北海道へ移住をなす
事だ五十人百人と隊をなしどし／＼出かけるなり、そをして村をなし群
をなし縣をなす様にす可し元より北海道の事だから寒かろう然し内地で
炭薪も買へないよりの良からん、又つらからう然し内地で人お恥かしい
思をして居るよりの良からん此が所謂の決心のまどころ昔なら朝鮮迄で
も戦お行つたじやあないか戦に行くの死も同じこと然るを北海道へ
行て開墾するの國の爲めに忠にして身の爲めに幸となるていはいか又幾
年の後ちにい金も出来れば再び内地に歸へつて何かを初めめる資本も

充分出来るでないか何ふしろ金が無くて何事も爲せぬ世だから金を貯める爲めふい働かねばならぬ尤も移住費又の移住後開墾す可き土地の事お就ては政府より下し賜はると云ふ恩律さへもありとい何と難有からずや勉めよく國家の爲め大利益をなす此事業を以て士族の耐忍勉勵をして他人を平服せしめよや

書 生 策

理髮店に行つて顔をすらせる積りでありながら頸をすられ頬をすられ腮をすられ額をすられ眉をすらるゝを面口臭く思ひ半分すつて床やを飛び出した者ありとせんが、下髻の半分すれて半分すれず頬のすれても額がすれず、おまけに二週間も櫛の齒を容れない様な髪を洗らはせもせず歩き出した可笑しさよ、自分の得意かも知れんが外の人から見たら九で狂者同様なり、それと同じ事にて氣ばかりせいでも學問の出来ない者の世

の中ふ飛び出しても何のやくも立たぬぞ、能く世の英學の少しも出來ると之れから中學だ大學だと云ふの氣がきかない夫れよりの世間に出で已の技倆を現はしてやるふ、なぞと云者もあれど之れ等の大間違ひ卒に何おも出來ない人となるべし左れば吾等の望む所の書生が已の身分を顧みる事だ如何も滿腔の熱血を吐露しても何でも直ぐあの政治家といなれない滿身の技倆でも英雄豪傑とい自分免許で人の許さぬ、彼方へ馬兒つき此方へ馬兒つき、はては通辨か三百代言位が止まりとなるなり或の親類中ねたり廻はつて五十圓か百圓の金で洋行もすべらしいと「サンフランシスコ」迄奴となりに出かける者も多い様なりそれよりの父母の許より來る學資で正直正銘こつゝ勉強して高等中學なり大學なり或は又専門に政治なり法律なり醫術なり商業なりを夫れ相應の學校に入りて卒業すること本分なれ元より人間の事なれば酒も飲みたくなるだらう

遊にも行きたくなるだらう併しそれ位はまだよし新聞を見ての世の中も
出たくなり雑誌を讀ての政治を談じたくなるよ云ふ事夢つゝしむべきあ
り其上出来る事から酒も嗜しみ女も遠ざけ花と團子の間違いない所で未
を樂として貰いたし今の名士の昔の書生今の書生の此さき名士となつて
賞らはあやあならぬ人戒めや／＼決して汝の理髪店なる學校から途中で
飛び出す様な愚をあす可からず翼天を垂るゝよ至てこそ初めて汝の好む
所に飛べ

僧侶策

僧侶策

九い頭に鉢巻して政治を談じて、さあたがない帝國議會の會議より列
らなれない尤も中にの還俗主義で政海のお釋迦と氣取らんと心組するも
のも有る様子だが夫よりの餅屋の餅や坊さんの矢張り袈裟うち掛けて、
ゆらりと坐ること奥床しおらん、去とて、ゆらりが高じて尻込思案でい

僧侶策

つ迄も居るの勿論不都合だ何せなれば其中にの外教がどし／＼波を扑て
推し来るからの事確のやらなきやあならない夫んなら何をするか、一番
初めの先づ演説が必用だ次に雑誌發行其うへ出来るなら日刊新聞の發兌
も望むなり尤も今での尊皇奉佛大同團などと云ふ者が出来て彼方此方で
演説があり其他青年佛教會だの何佛教社だのと云い殊に又海外に迄布教
する會さへ出来た様にてさまざま働き手もある事なれど之を外教の働き
又較ぶれば未だ／＼中々蝸牛の運動なり又佛教雜誌も諸方から出るし日
刊新聞も近頃西京邊から出す様なれども此等も大方一部分の佛教信徒が
讀む位ならん、あはれ願くの其基を固くし又記事を面白くして俗家に
も解り易くす可し元より新聞などを起すの何れも自分の宗旨を廣めんと
思ふからの事ならん何も佛教徒ばかり讀む爲めのもので無のらふ目的
が既よそをなれば優さしく書き立つべし決して禪語まじりの歸り附きの

文での役も立ぬ、そんなものなれば世の中の看客も又初じまつた抜萃新聞と一概に云て讀めばなる其實讀む人も餘り高尙過ぎて讀めぬ方が多い、よし讀めたとした所で解からぬから何んも成らない又そんな難かしい事が云いたければ、それを云主義の雑誌も掲載するなり或の別出版物として出すがよいでないか所で言葉初に返して彼の演説の事を中さん僧侶の一徳とも云ふ可き各々あり寺院が附物あれば何時演説を爲すとも、やれ芝屋だそれ茶屋だ云て借りに歩くせわいなんだからどしどしやらかす可し夫れこそ一週一度づゝの何區で何寺と云ふ様も定めてをき盛に演説を爲がよい又其門前あり佛敎新聞なり同じく雑誌ありを賣捌かせ尙ほ一枚摺りの引札様の者も當日の演説大意を記るして歸路聽衆も一枚づゝ分つ様にせば大も利益あり其他難有きお經の文を注解して小さき冊子となし五厘か一錢で賣れる様にして各寺院も備へをき參詣

人の求めも應ずる事恰も志きみや線香を賣る如くなすがよい又學校を建て、夫れ相應も生徒も仕立つべし今日の所で何分法海内輪の競争が多い様なれども夫れの先づ止めあして所謂大同團結主義に協力同心で外敎を退くる事も盡力すること能からん但し無茶苦茶無理亂暴に外敎を破毀す可へらず彼外敎を信するもの「バイブル」を以て眞も神の造りたるものと深く信じ居れば此つちで幾らそんなもの「神の遺たもの」でも何でもない第一神が何所にある馬鹿者と云たばかりで其神のなほ譯の斯く「バイブル」が神の手も造られざる譯のことを「だ」と一ち一ち例證を擧げて之を駁し彼等をして其答に窮せしめ理論上初めて其神のなきを知らしむるも至れば格別左なくて唯神なぞの無ものだそんな物の鼻かみ塵かみ双紙かみだなど云者あらば到底外敎徒を減退するどころか彼等も却て我國僧侶の無智を笑ひ悲み神も請ふて其愚を改め新も神の前も踞まず

僧侶策

く様おと天に向て拜するとも決して其言ふ人の説お従ふ事なからん此所の良く注意す可きなり且つ人を説くに自分から良く身を謹まねばあらぬ品行を良くせねばならぬ政治の國の夫たり宗教の其妻たる様なものなれば道德を本尊としてやる可し決して自分の身を持崩すなかれ如來の光明を輝かさず、お門違ひの大黒を崇めまつり終に庭におしめでも乾す様ならざる様たのみたし其上茲お一つの望みがある此の一大火葬場を建築せる事なり、又其株主の全國の寺院にて引受坊さんの檀家の人々お常談として火葬の利あるを説くべし、そをして火葬が盛に成れば主なる寺院も金が出来ると又衛生上にも大妙藥お醫者さん達や巡査方の世話を焼くとの一ツも減るから此は是非やる可し又坊さんの何んだか俗家と交際を好まず俗家も亦之を遠くる様なれども之れは佛教を進歩させるお付て大不利益なり眞坂瓦斯ランプを反射す様な頭て鹿鳴館の舞踏を

商人策

せられても困るがそんな交際で無い又ずつとさばけ世辭で丸めて浮氣でこねられてもたまらぬが其處の程よく世人と交際をなし所謂談笑の間に衆生をして此世の中の極樂界お導けや扱以上云が如くせば日本の佛教を初めて外敵の浸入を防ぐお足る鉄槌たらん乎、あゝ鉄槌汝の物を叩く力あるにあらずや汝却て物に叩かるなかれ

商人策

黒塗り馬車で高帽子まかも八字の髭まで付け大道狹ましと馳廻る自稱紳士より其日暮しの天秤がつき迄商人の皆齊しく是れ商人なり、去れば商人の社會の良き位置お居るか悪しき位置に居るか何つちが多いか少くないか先まばらく後おして商人全体の氣性から云へば眞に心の汚れたなき者なり金を攪み込むとばかり知つて出す事知らない然し出さなければならぬ事が出来て来るから仕方なし出さぬ先づ拜金主義たる

ふ此連中が神佛を拜む時のいつも後と先の事の考へず唯金がほしい金がほしい黄金が出来ます様ふと拜むならん神様がいつもお利益がまいから幸ひ若や承知なされて、そんならと云て家も黄金となり疊も黄金箸も黄金、茶碗も水も米も皆んな黄金と成つたら何をする積もりだ望みが満足しすぎて食物が無くなり餓て死ぬより外仕方がないたらふ夫れ金銭の社會の流通物、例へば水の様なものなり人々水がなければ生活の出来ぬ、さりどて多いがひとと云譯でない入用丈けあればよい若し多すぎて洪水でもあられらやお役お立たぬそれを何せ其儘お崇め立つるぞや夫れより其金を取り込程の骨折を以て海外貿易事業お精を出す可し國內の金を儲けるのの親子兄弟の金を取て喜ぶと同様で何の國お益する事が有るものか唯自分が少し金が出来る位なり夫れも前よ云ふ通り金ばかり有ても仕方がない夫故お或るもの危険を侵して群鳴貿易をなし或るもの

策 人 商

謀を廻らして大國貿易を盛ふし我國産の販路をして、いよ／＼多からしめよ然らば金を貯ふるお骨を折らずして金も亦自ら來る可しそれのみならず農夫の黒くなつて穀物を作るも勉む可く技術家の汗を流して精工の物を出す可し總て何製造人おても造くつて棚お置くばかり賣口が無いから自然不景氣おもなり不勉強にも成のた其所で商人の大頭の協力して、どし／＼海外貿易を盛よせば此等よりして國の富み民の喜ぶ可く又海外の必用物を輸入する事も多きよ至れば從て吾等同胞の用ゆるも容易とならん即ち之れ開化を導くの輸入とこそ云ふ可けれ眞に國を富まし文明を誘導するに勤むるの商人の愛國心と云ふべし然れども前にも云ふ如く徒らふ金を貯ふるよ至ては其何の故たるを知らざるなり或は地獄の賄賂にでもする積りか極樂と取引でもするつもりか知ねども兎も角此の世の中で働く事を、も少し考へることを眞の商人ならん但し例の天秤流の所謂

策 人 商

商人策

社會の小使に生れたる者と悟めて精々怠らぬ様働くより外しかたなし尤も此等のもの貯金主義を行ふがよい二合飲みたい酒も一合儉約して、ドル函でないどろ製の寶珠の玉にでも貯へそをして十錢以上お成り郵便局お預づけるがよし一ヶ月十錢づゝ預けても十年たてば十四五圓といふ大枚おいつか爲づて居るなり、それだも因て今此を一口に云へば大商人の金を貯めるな金の働くと共お貯る又小商人の精々儉約して、金をこしらへよ何つか知らぬ間に金持となるをすれば商人の遺傳性なる金、が希しいといふ病お満足が與へられるなり

農民策

夏の日も鋤を擔つき冬の朝も鋤を持ち年が年中風と雨とを友達として働く農民程勉強のものはない、それに樂と云へば鎮守の祭禮お御神酒を戴く位おて別な遊とてい無さも常お不服も云はず質朴に活計こそ眞に良民

農民策

と云ふ可けれ其の換りお氣樂なもので年中米代おこまるていなし屋賃おさしつゝへるていなし汁の味がはしくお畠から摘み來り味噌がはしくお納屋おある、やれ權利だそれ義務だと云ふ様な喧ましい事い云はず自ら禮儀もある又近頃てい何所にも學校が出來たから小兒等も假名交りて手紙ぐらお書ける様なつたいらう實に結構々々此上なし所で一つ話した事い勉強の上おも一層精を出して穀物を造る事なりお上へ年租が上げられて一家のものが喰べられて行けお能とせず尙ほ互ひ互ひお村中のおものを己れ一人で食べさせてやる位お思ひどん／＼米穀を採り入る可し其中に追々農具の改良も出來れば夫れを使ふ事になれば骨も折れず自然多くの買入りがおある様おなるそれを常お貯へるが肝腎だ常お多くの穀物を貯へ置けば天災等があつても難澁する事なく又國の爲めにも多くの穀物が出來れば之を外國へ出して賣捌く故自然金の廻りもよくなる

又家毎に鶏なり鶩なり豚なり兎なりを畜ひて之をふやし縣廳地へ持ち出す可し田舎で此等の者を畜ふのふい別み定まつた飼料もいらす彼所のみ此所のごみ、でもほじくられれば夫にて充分なり農の國の元社會の賄方なれば其勤怠の國中お大關係を起す故に尙ほや一層力を盡す可し正直の頭お神やどる働く所お貧乏神の居たゝまらぬものぞ

教育策

鳩よ三枝の禮あり鴉お反哺の禮あり人として教が無ければ禽獸に近い所か禽獸にさへ劣るものだ、それ故に人の何でも教育が肝腎かなめた、去りとして六才の小兒お大學の講釋を聞かせても解からぬ中學の生徒よ大學の課定を授けても、いけない矢張り夫れく物の階級と云者があゝる殊に小學の生徒おぞおの解り易く覺え易きを第一とする因りて讀書おぞもなりたけ平和のものを選らまれたし新お造るなら繪を、よけい入て文

をやさしくし難たくるしき文字をおまゝり使かたぬ様おす可し又男子の讀本よの成る可く昔、大和男の外夷を征服せしめし處などを挿入れ幼少の時より尙武の心を發達せしめよ又女子にの優おやさしき昔の淑女貞女の行狀を細まかお書きし物を讀ましめよ年稍や長じなば男子と女子を混じ置くのよろしからず又近頃の小學校が彼是やかましく私立學校おぞの追ひくつぶざるれども是の餘り良き事にあらず貧乏人の小供の公立學校などおての入費がよけい掛かるから、わざく私立學校お行かむるもの多し、それだのよ不完全不完全と云て私立小學校を廢さるゝ様お成と再び學問の出來ぬまゝいに爲て、はね廻る事ばかり上手になるものなり元より私立學校の不完全だらう資本も乏しければ公立お行かむるものなりとて無きにいたしましたらふ、まゝし所か却て適當だらう鶴と鴉の足の一所お論じられぬぞ、扱又此より青年輩お就て云へば彼等各々も己の志す

學校へ行きて勉強を爲す事ならん然し人間の情で易さしむ方より向き易く難き方より従ひ難きものなれども教員たるもの飽迄嚴重を以て旨となし講臺に立ちたる時の猶や反對黨の前より立ちたる心の組みあて、志のかり演ずべし生徒の發音迄其師に似ると云程なれば師たるもの生半價の事を爲す可らず昔聖人の分陰をも惜しまれしと云ふていなか教育家よ書生をして怠けものとならしむるなかれ、書生の不勉強の教育家の不勉強より出づるものにして教育家の不勉強の終に國家の安寧を害する事なしと云ふ可からず豈恐れて猶ほ足らぬ程の恐ろしさならずや

選 舉 策

右の手を「パン」を焼き左の手を本を讀むと云ふ多忙の今日なれば人智も開け郡長さんの布達や戸長さんのお話し、いづれも浮道理多尤も平身頓首して伺ひ奉りし昔の日どの異りをれば田舎だとして壓制主義で行れぬ

それだふ因て帝國議會の候補者を選挙するにも能く／＼氣を附くべし或者の自分の親類達の友達達の同主義のものを出したいと云ふ所から種々奔走し歩き知る人を招て酒の馳走をなし情實上其人を選挙せしめんとしたり又分からずやの選挙人を、つかまへ候補者を選ぶ所の斯々せよと教へる様を云い方いまだよし附てい誰某を選挙せよと迄云ふ様な不都合のものも有る事ならん此等の唯不都合のみならず其人が一時承知して選挙した上て他の人より聞き、あんな者を出しては大變だ、あれは山師だ、あれは權謀者だなどと云はれてから自分も、なるほどと思へば、さあ其所に大葛藤が生じて擦たあ揉んだあの大乱痴戯に至り終る同村中お住みながら互に敵視して双方とも家の廻りに番人でも附けて置くよと云ふ様になるとあり夫れ故に選挙者たるもの良く心を落附け目をつぶり虚心平氣で考へ村中なり郡中なりで誰が平常公私の事に忠實なるぞ又誰れが正

選 舉 策

直で物識りなるぞと云ふ事を長く考へたうへ村あり郡なりて別懇をする人おも謀りて其人達も同意なれば茲は初めて其と定むべし之れ實ふ少事の如しと雖ども然かも選舉者たるもの、心裏の秘傳なり決して人から誰れに札を入れてくれると云はれたとて之を承知して其人の平常の行も顧りみず選ぶ様な事ある可からず況して三百代言然たる者の云ふ事を信ずるなかれ彼等の幾らかの錢をつかまれて各を瞞着お歩くのも知れず又近頃とても東京での選舉の争へぬと云ふもの田舎のら出んと思ひ知りもせぬ所よ出かけて行き内所の大唐栗てよを地面など買取り甚しき買取もせず一時名儀はりのも有るべし、そをして「フロックコートに金時計などびかつかせ髭捻りながら「シガレット」でも薫ゆらし其地方二三の有志者を取り入れて味ましく其所から選らまれんと思ふ者もある様子なり之れ等の殊によると天ぶら物なれば剣呑々々氣を附けべ

被 選 策

し、それよりの郡なり村なりに幼少より生長したる素生の知れた物識りを選ぶ可し、それならば東京から歸り來りたるも西洋から歸り來りたるもてよし、元より初おも云ふ通り地方の人だとして近頃の智識戦争場に居るものなれば、そんな馬鹿氣た事の萬々あるまいとの信ずれども所謂倒れぬ先の杖なり又有志者だとか何者だとか自分許り物識り顔して壓制主義だの籠絡主義だので人を取り入れんとすると飛んだ、はねつ反へりが来るぞ見よ岩を打つの潮の又白浪となつてぞ飛ぶ

被 選 策

己も今迄村中で尊とまれて居たから今更帝國議會お出られないと云つて何だか巾がさかない尤も一區から一人外出られないのだから近頃西洋から歸へつて來た、あいつの學問もあるし名望も良い様だ殊によつたら、あいつよまめられるかも知れない、あんな青二才まだ、やつと満三十位

被選策

だるふ、そいつあやられての大凹みだ第一此村お居られなから何でも愚民を寵渌して一番此所でいられが候補者お爲らなければ爲らぬなどと云ひ、よせばよいのは胡麻鹽頭を振り立て騒ぎちらかすものも随分ある事ならん然し之れ等の者の一時の熱に浮かされたのだ、言ひ半狂氣なり去れば灘でもあびせて連れてこい先づ一話して聞かさん元と議會なる者の大節肝腎のものなり田舎の人々の芝屋見物でもする積もりで無暗夜お出たがれども之の大間違ひ大心得違ひなり抑も議會の政府と人民との調和物おして全國國內の政治の得失を議する所なり夫れ故お此一堂に集まる人物の所謂全國人民の總名代おして天下の俊才なり又俊才でなければならぬ其俊才先生達の頭を悩やまし心を苦しめ種々考へて論じ會ふ事故其人人の最も謹直おして學問も經驗もある者たる可し決して一村一郡で威張れたから議會お出ても威張れるなぞと思ふ可からず又徒お己の

被選策

名譽心の爲めに同郡或は一區中に於て他の俊才を出さしめず已れやれ一番議員とならんぞ思ふものゝ實お國家に對して不忠不臣此上なし若し又自分が果して議員たる可きの主格あれば他人が黙まつて居らぬ必ず自分を選舉するならん因りて思ふに議員おでも成りたき者の自分の身を謹しみ父村の爲め郡の爲め國の爲めお能く熱心お盡す所ありて人の己を遊ぶに任ずべし人若し己を選人す他人を選人す己れ未だ其人お及ぬ所ありと知り益々勉強して國事お盡力せよ其功あらぬれば次の選舉に議員となられぬ者でもなし夫れを良く心お記るし置かれよ決して己の名譽心から議員おなりたと思ふなかれ寧ろ臥龍先生を氣取るも徳脩つて道明なれば辞すとも辞されず議會の舞臺お上らぬばならぬ様おなるなり

遠征策

古來同胞の危険を恐れず小舟をこぎ出し、莫々たる洋中を横ざり大膽おも
不敵おも支那なり朝鮮なり露西亞あり「シヤム」なりへ、こぎつけて乱暴
まいたること盛なりと云ふ可し夫れを今日の大艦もあり地理も明きら
かなるに子孫たるもの何故に薄弱にも卑屈おも、ぐずつくぞ今若し一里
の外に寶あり人の取るに任せんと云ふあれば人人必ず風雨も事とせず馳
せ附けて之を取らんとするならん、それだの僅か海一つ外へ出ると云
へば恐れ込んで現在ある寶も取らぬとい何んど卑屈の腰抜けものならず
や彼の我等の奴僕視する支那坊主でさへも海外遊かち出して米州の金、
濠州の穀終ふ吸取らんと迄なす勢あるにあらずや兵法も糧を敵に取れ
ど、何でも人の國の物を取る事を考へねばならぬ何ぞ國內お居ても握り
罌丸で燻芋でもかちつて居るばかりなり何も智慧の無い話し夫れでさへ
一と月に四兩と五兩のかゝる又たまに牛肉の一鍋も喰べたい酒の一杯

遠征策

遠征策

も飲みたいと云ふ様な事となるから卒ひ一枚他ない羽織も質屋の藏に道
入る様よなる左れば行くも困るしむ居るも苦るしむ寧ろ進て萬一お侍僥
を期すこそ良からん錢が無ければ七島でも仕方がない小笠原嶋でもよろ
しい北海道でも琉球でも又錢が出来るなら夫れ相應に南洋でも北洋でも
勝手お行つて何の見出すなり考へが出すなりして果して國の爲めおなる
可き見込みが附けば之を全國の有志者よ訴へ何でも蚊でも功を見る様に
爲す可し困りては我等同胞も其遠征者の發見したる事よ附て見込あると
せば充分盡力して其補助金を、こしらへる可し又内地の新聞屋の遠征者
の志を稱賛し、成否とも彼の報道を掲げ彼に名譽の位置を持たしめよ之
れ他の遠征者を續々輩出せしむる手段なり斯くして幾他の日本人諸所を
探求せば或は夫れ蓬萊も無しとせず加之國民の勇氣は常々宇内を呑むの
喜ばしきに至るべし

遠征策

古來同胞の危険を恐れず小舟をこぎ出しはたかる洋中を横ざり大膽ある不敵ある支那なり朝鮮なり露西亞あり「シヤム」なりへ、こぎつけて乱暴まいたること盛なりと云ふ可也夫れを今日の大艦もあり地理も明きらかなるに子孫たるもの何故に薄弱にも卑屈おも、ぐずつくぞ今若し一里の外に寶あり人の取るに任せんと云ふあれば人人必ず風雨も事とせず馳せ附けて之を取らんとするならん、それだの僅か海一つ外へ出ると云へば恐れ込んで現在ある寶も取らぬぞ何んと卑屈の腰抜けものならずや彼の我等の奴僕視する支那坊主でさへも海外道かあし出して米州の金、豫州の穀終に吸取らんと迄なす勢あるにあらずや兵法も糧を敵に取れど、何でも人の國の物を取る事を考へねばならぬ何ぞ國內お居ても握り罌九で焼芋でもかちつて居るばかりなり何も智慧の無い話し夫れでさへ一と月に四兩と五兩のかゝる又たまに牛肉の一鍋も喰べたい酒の一杯

遠征策

も飲みたいと云ふ様な事となるから卒ひ一枚他ない羽織も質屋の藏に這入る様よなる左れば行くも困るしむ居るも苦るしむ寧ろ進て萬一お伴僥を期すこそ良からん錢が無ければ七島でも仕方がない小笠原嶋でもよるしい北海道でも琉球でも又錢が出来たら夫れ相應に南洋でも北洋でも勝手お行つて何の見出すなり考へが出すなりして果して國の爲めなる可き見込みが附けば之を全國の有志者よ訴へ何でも蚊でも功を見る様によす可し因りて我等同胞も其遠征者の發見したる事よ附て見込あるとせば充分盡力して其補助金を、こしらへる可し又内地の新聞屋の遠征者の志を稱賛し、成否とも彼の報道を掲げ彼に名譽の位置を持たしめよ之れ他の遠征者を續々輩出せしむる手段なり斯くして幾他の日本人諸所を探求せば或は夫れ蓬萊も無しとせず加之國民の勇氣は常々宇内を呑むの喜ばしきに至るべし

處世策

世の中の月に村雲花お風玄れつたい程まゝならぬもの佳人の薄命才子の
 多病扱ても造化の御神も無情なものと恨だ、所で仕方がない夫れよりの
 先づ足下のら、そくく片附けて行くの良唯希望ばかり立派にして侈
 常人の、いつ迄も垢むみた衣服で威張居ても仕方がない太平樂も、い
 かげんあして身分相應な所に仕かへたが良い鯛鳩の大鵬を望む可らず鯛
 鳩の却て鯛鳩で安すんずるこそ天地の道理ならん夫れはそのはず世の中
 の利口ばかりぢやあ仕方がない馬鹿も中々入用、去りどて涎を垂らして
 笑て居るばかりの正札附の馬鹿の汚免なり此お云の、そんな馬鹿で
 ない一寸例て見れば、いくら旦那が利口でも旦那ばかりぢやあ世の渡た
 れぬ飯をたくものから掃除をするもの手代から番頭人力車夫から馬丁ま
 で入用だと云ふとさ、夫れだお因つて馬鹿の馬鹿なり使道がある奔走し

處世策

て使かつて貰らをとと思へば幾らでも使へ口のあゝ、それだのに内にバ
 かりくすぶり反つて居て嗅い煙草でも、ばくく志ながら、あゝ天下あ
 伯樂がない、などどうなるの眞お野ばくの項なり處世の道のそんな
 漢方流での追附かない譬でもからげて向鉢巻の大意氣込でなければなら
 ぬぞ金がやしく何故働かぬ働らけば取れるはず然し取つても遊すんだ
 り飲んだりして、ままへば、それまで、之れは自業自取だから仕方がな
 い又これ程働ても福が來き世の中お已程不幸のもの有るまいなぞど
 世迷言を云ふものもあるふ此の其人間の心の小さいのだ昔から大事業を
 興したものの白無垢でつかの人でなく却て手拭一本のもの多し何も驚
 くお足らぬ客な魂性を出さずに死ぬまで働らく可し所で次の高尚なる
 人間例へば政治家おなりたい法律家になりたい、やれ何それ何と兎角く
 社會の上位お立ちたがる人の如何よ處世の法を爲すが良いか、それの各

處世策

處世策

々其人が平常仰慕する英雄豪傑の事蹟の毎日讀て其まねをするが一番だ
 但し斷り置く事あり鵜の真似をする鴉の水も溺るゝ虎を畫がくつもりで
 狗となる事があるかも知ぬが、それの自分の及よべぬ事仕方なしと決む
 べし今の余の好伴英國故の大宰相「ロイド、ベコンスフヰルド」に聞く處
 世の道の朋友の爲めに飽迄力を盡し苦樂を共ふし反對黨を對しての出
 來る丈け邪間をなし彼を撲滅せしむるに至らしめよとぞ、あゝ此言
 を以て反對黨も亦我を叩たかんと欲するか、抑又其上になりて一方の總
 理とか首領とか仰がるゝ人の處世の法を、どをするかと云ひし之れこそ
 ひたすら三零を味ちられん事にこそ、余の敢て圯上の老人を氣取る譯ふ
 いあらぬとも圯上の老人偶々余と其志を同うせし故仕方なし

附錄
 余國民策を畫終るの時一夜無名氏あり余の爲め奇談を吐く蓋し其意
 深きにあるが如し即ち喜で之を記るし以て附録となす讀者幸ふ本編と
 共に其味を噛み分けよ

余が妹小青の幼よして南亞米利加の豪商某に携へられて同國に生長せり
 某の墨西哥西銀山の持主よして又北米衆合國其他英佛獨乙國等あつても巨
 他の鉄道株を所持し尙ほ地亞にの金山をも藏せる頗る富貴人なり然
 るも天命常なく卒ふ今壽永眠に就けり爾來其妻引續て之を支配すと雖も

嗚呼二億方圓を如何せん

歐 策 子

々其人が平常仰慕する英雄豪傑の事蹟の毎日讀て其まねをするが一番だ
但し斷り置く事あり鵜の眞似をする鴉の水も溺るゝ虎を畫がくつもりで
狗となる事があるかも知ぬが、それの自分の及よばぬ事仕方なしと決む
べし今の余の好伴英國故の大宰相「ロイド、ベコンスフヰルド」に聞く處
世の道の朋友の爲めに飽迄力を盡し苦樂を共みし反對黨を對しての出
來る丈け邪間をなし彼を撲滅せしむるに至らしめよとぞ、あゝ此言
を以て反對黨も亦我を叩たかんと欲するか、扱又其上になりて一方の總
理とか首領とか仰がるゝ人の處世の法を、どをするかと云ひし之れこそ
ひたすら三零を味ちられん事にこそ、余の敢て圯上の老人を氣取る譯あ
らねども圯上の老人偶々余と其志を同うせし故仕方なし

附 錄

余國民策を畫終るの時一友無名氏あり余の爲め奇談を吐く蓋し其意
深きにあるが如し即ち喜で之を記るし以て附録となす讀者幸ふ本編と
共に其味を噛み分けよ

歐 策 子

嗚呼二億方圓を如何せん

余が妹小青の幼よして南亞米利加の豪商某に携へられて同國に生長せり
某の墨哥西銀山の持主よして又北米衆合國其他英佛獨乙國等も於ても巨
他の鐵道株を所持し尙ほ地亞に金山をも藏せる頗る富貴人なり然
るも天命常なく卒ふ今春永眠に就けり爾來其妻引續で之を支配すと雖も

元と二人の間み生子なかりければ爲め巨萬の富財も人に譲るの他術なし而して其妻の幼少より養育せし故か小青を親み愛し人種の變れども已の實子の如く思ひ卒ふ其家財二億萬圓を引渡し其家の相續人たらん事を請へり小青も亦幼年九歳より今年二十歳に至る迄十一年間彼と手を携へ膝を交へたれば直よ乳母の如き心持し居たれども今日其家の相續人となるの望む所にあらずよし假令ひ二億萬圓の全世界に於ての巨額金なればとて東海の日出國に生れたるの身にして徒ら恩愛の爲めに西人の遺財を受け其家を續くが如きの義として能はざる所と終に斷然之を辭し袂を奮て飄然日本に歸り來れるの二君も既知所ならずや二君よ戯れあ今此二億萬圓を得たる者とせば夫れ如何なる所致をか爲す

是の此家の主人日來居士の談話おして其二客とい好友の五山人及び柳々子なる者なり柳々子の洒落の才子おもて天性自ら優飽ふ又五山人の一個

の奇男子にして性質勇壯喜て書を讀む共天下の俊才なり今居士の説く所を聞き五山人の先づ腕を振て曰く快なる哉快なる哉抑も我をして之の巨萬の黄金を自在ならしめば我夫れ大和男子の技倆を現さん大和男子の技倆とい何ぞや請ふ之を述べん其初めや海外旅行を試むるあり即ち一着歩を米國となし其都府名區を遊歴し夫れより英國に入つて政海狂瀾の有様を察し此所お半年彼所お一年と五大洲を廻り歩き物の美から事の粹を嗅分け見分け文明國の善の善を聞て惡の惡迄心お記るし英米國より獨乙佛蘭斯伊太利魯西亞支那と巡遊したる上其各國より當世の學士數名づゝ伴ひ來り歸りて東京に一大新聞社を擧し大帝國新聞社と稱し政治經濟文學上總ての出來事お就て最も之を痛論し又世界列國の其事に比較す可き事例證す可き事等を掲げ出し確實と沈着とを以て立論し精考と鮮明とを以て印刷し廉價と迅速とを以て之を世間に配布し同時お一大學校を興

し宇内館と名づけ其目的とする所の宇内各國の學術技藝等を學べしむるにあり而して館中又別の一室を設け名づけて秀才館と云ひ政治學法律等を教授し一月三回若しくは四回校中の生徒をして討論會を開かしめ當世の時事を辯難攻撃せしむ又其方法の如き之を英國の下院制に摸す即ち議長あり副議長あり左黨あり右黨あり新聞記者あり傍聽人あり而して之れ等の何れも生徒をして時々抽籤に因て之を定めしむ唯其議長に至るべし而して之の秀才館平素學術優等にして又衆生徒の望を屬する者たるべし而して之の秀才館の生徒をして他日帝國議會に出す可きの階梯となす斯の如くして帝國議會に列するの大半の己の子弟たるに至らしめば豈愉快ならずや又宇内館中附て人才を摘拔し各其任を量り鑛山事業を爲さしむる者鉄道事業を爲さしむる者捕鯨事業を爲さしむる者紡績事業を爲さしむる者其他或は新聞事業或は出版事業或は印刷事業或は木工事業を行はしめ尙ほ商業を

目的とする者教育家たらんと欲する者文藝家たらんと欲する者而して又海陸軍人たらんと欲する者等には各々金力を與へて其目的を達せしめ己の輕裘肥馬日ふ東西ふ至り南北を廻り彼等の報告を聞き彼等の事務を見心ふ合せざるあれば之を止め心に合するあれば之を行ふに益々敏ならしむ尙ほ其各事業も盛運に至る可きの有様も見ゆれば直に決死の士を従へ鉄艦を浮べて自ら之を指揮し飲食衣服の類を山載し北海の怒濤を破て國役。擇捉より樺太に入て貿易をなし且つ其動靜を窺はん抑も此間の千嶋海水深うして怒浪天ふ接し大魚跨躍して氷塊間々流る故も航して之ふ至る者稀れなれども然れども若し黠毛を生ずるの士一び志を決して之の擧めれば利の將ふ濕手粟を擲むよりも多しと又快ならずや夫より北海に出沒し隙の乘ず可きあれば旭旗を樺太の朝風ふ翻し同嶋をして再び日本の有に復すに勤めば又以て國に盡し家を興し而して身も亦一世に重ぜらる

るに至らば豈お望んで面して卑しからざらん居士以て如何となす
 言未だ終らず柳々子の大笑して曰く何ぞ大和男子の技倆の少なるや五山
 人の黄金を得て面して益々苦しみ終るの骨を北海の魚腹に葬る如きに至
 る乎嗚呼愚哉拙哉我をして二億の金を攫ましめば鵬の翼を張るが如く龍
 の雲に乗ずるが如く世界に雄飛して天下に抜扈せん抑も其所致如何両君
 請ふ暫く耳朶を傾けて之を聞け

二億万圓元と空手にして之を得たる者例へば棚から落ちたる牡丹餅の如
 く寐て居て得たる果報の如く然り然らば即ち之を仕ふも亦客氣ある可か
 らず肉の山の如く酒の池をなし美人を友とすとい支那の王様が爲せし豪
 遊なり拙者も望む所の其所なれども之を細密に語れば第一に金時繪の五
 頭曳の馬車を製造せん元來日本の美術國殊に漆時繪細工などの類も至て
 の世界獨歩赤髯も毎度涎を流すが如何様工風をなすも彼等よの製造する

事能はず閉口して居ると云其様な結構の物が有るものに何故我國の華族で
 も紳士でも金時繪の馬車を造らば黒塗り計り用ひらるゝやされば拙者の
 一番之で日本の豪傑の乗物を赤髯等に見せて膽を潰させてくれん其れ
 に馬の「アラビヤ」種が立派なれば之を五頭揃へ馬具の虎の皮を所々に
 黄金製の鈴を下げ金具は「アラケナ」の「ダイヤモンド」の飾を附け又車お
 六個の電氣燈を揚げ御者五名の緋羅紗の上衣に白羅紗のズボン何れも卸
 の總金おして帽子は黒い銀金の筋あるナボレタン形靴は佛蘭斯革の提灯
 筒を穿たしめ又馬車の中に拙者の服の黒羽二重の重さぬに黒七、子の
 羽織何れも紋附にて帯は博多袴の仙臺平靴の支那流にて裏は白熊の皮あ
 りて表は水淺青の紋綸子帽子は山高の黒パリ製の上物なり杖は剛鉄よ
 りて表は水淺青の紋綸子帽子は山高の黒パリ製の上物なり杖は剛鉄よ
 黄金の三分ばかり上方に直徑五分程の「ダイヤモンド」あり若し白晝之を太
 陽に照せば即ち直に夜光の玉成可し又其車室の廣くして越臥も適す扱此

馬車を廻して五大洲を馬蹄に躰ましめ天下の英雄を訪ふて之と遊ひ其快如何ぞや又家宅の品川東海寺邊高台の地を卜じ外門の日本流往昔の所謂諸侯門となし其左右の門長家お下僕臣僚を居らしめ中門の之を台の中央に置き支那の古代風お摸せん又庭園の廣さの十萬坪餘家宅を三所お分築し日本流西洋流支那流とあす而して日本流の元録年度の好藝を以て之を造り西洋流の羅馬古代の造築お習ひ支那流の明朝の餘風お摸し各園内十餘町を經るの所に有らしめ別に又和漢洋折中の一大家宅を築き之に家人侍女の輩を居らしむ御ち之の隔離の家に使ならしめんが爲めに庭園中お鉄道を設け蒸汽車を備ふ侍女數百の各好む所の服を用いしめ其最も美麗おして最も奇想我を喜ひしむる者即ち賞與を興ふべく又來人の我お頼る者の其内外人を問はず之を待つゝ賓を以てし日次の長短を論ぜざるべく書生の我に來る者の養て而して好む所を學べしめ其勤怠を問はざる

可し他日業成り我お告ぐるお胸中を以てせば其望む所を達せしめん而して時お或は李園の伶郎を招て宴を聞くある可く時に或は都門の麗妓を集めて秘を浮ぶある可く若しくの蓮を西湖お愛して手を吳越の美女と相携ひ若しくの月を「ナイヤ」河お賞して語を英佛の最物と共おす可し愈快おの五大洲中皆我を迎ふ我が喜ぶ所の之の逍遙遊樂のみ黄金我お於て塵より輕く浮世を一瞥し去て人皆な我お下る我心愉快を知らずして愉快其中おあり我心辛苦を知らんと欲して而して終に辛苦なし嗚呼又人間の樂上帝の「パラダイス」も之れに若かざらん日來五山人神君何ぞ之の快樂を欲せざる

其時居士笑を合て曰く五山君の説と云ひ柳々君の思と云ひ共お之の一家傑の言なり而して五山君の辛苦を以て身を立て人と欲し柳々君の豪舉を以て名を轟さんと欲せり唯柳々君の自分勝手にて國家の爲めおに

書生を養ふを以て足れりとなすか五山君の又國家を思ふの念深く自ら辛
 苦を甘ずるの喜ぶ可しと云へども別段云へる如く若し樺太を領奪して日
 本の有と爲さんと欲すと云ふが如きの或の國を思て而して却て國を傷ふ
 如き觀なきにあらざらんか如何となれば樺太を奪取るに於て行はるれば
 即ち良し若し行はれざれば音お樺太を得ざるのみならず終にの後來隙を
 露國と結ぶの端を開くおあらずや請ふ兩君各々其事は就て答辭を垂れよ
 兩君の辭おして我心に適せば我又從ふ所ある可し兩君以て如何となす
 偶ま入り來る者あり洋裝の一女史緞手玉の如く紅顏畫かくが如し之れい
 之れ日來居士の妹小青女史なり女史天性秀才一を聞て十を知る加之女徳
 尙々として頗ぶる人は重ぜらる今や出て二客お接す即ち容を改めて曰
 と圖らざりき貴女の西人お答ふるの辭よりして終に一境の談話を起せり
 因て今假に彼の二億万圓を得たる者とし其所致如何と即ち各々奇想を吐

露するよあり庶幾くハ貴嬢も亦二億万圓を得たる者として之に對するの
 想を語られん事を

居十之れを制して曰く枝葉の語ハ之を後おせん唯幹根お就ての答辭を聞
 かん先刻の二問題ハ頗ぶる兩君の心腹を苦しむる者おあらずや先づ當初
 柳々君の意見を聞かむ

柳々子叩頭して曰く拙者の既に意見を吐露し盡せり又何をか云ハん然れ
 ども唯今居士の言ふ如く拙者の書生を養ふ位よての未だ國家お對するの
 務を欠くおあらず即ち別に一策あり是れ即ち國利民福を興すの基ひなら
 ん何ぞや曰く銀行を興す之なり而して其資本を一億萬圓と爲し以て東京
 市は設立して東京銀行と稱すべし今日我國一億萬圓の資本を有するの銀
 行何くおある即ち又商海の波瀾を自在ならしむるお足る豈良からずや
 居士曰く良し柳々君の意我既に之を知れり次に問ふ所の五山君の所説な

り而して其説たる柳々君唯單お銀行設立の考に比しての勿論難事なら
んと信ず然れども其快も亦頗ぶる快ならんと豫想す五山君如何よ五山君
如何に

然り僕の言ふ所い或の奇に失せん然れども快も亦快なり抑も樺太の在昔
日本の領する所あして當今の即ち魯西亞の有ふ期せり

措て之を問はず忽ち之の二國を交

換したり然れども其實樺太の純然たる日本領なりしも

故よ日本の樺太を以て千嶋お交換したるの猶や己の物
を以て

恰も或姦兒あり我の玉を盗んで他日之を
我お買らんと欲すの我の玉たるを知らずして之を買ふ豈圖らん我の玉を
我又買取りしと何ぞ異ならん故よ魯人の樺太を領せしめ

一び彼の有となりし國あれば無謀よ之を奪ふ能は
ざるの勿論なり

轉一轉眼を轉じて朝鮮を見よ國內紛擾して忠臣外お涕流し烈士内お刑死
せらる加之四面の強敵の窺ふ所たり一歩を轉ずれば之れ谷一步を進めば

之れ巖身体極て而して又國運の發達す可きなし中お就て事を知るの傑士の國運を進步せしめんと欲し制を日本お學び度を歐米に摸せり然るも國內の頑民の一時に蜂起して日本を恨らみ日本の終に我國二三大臣を暗し曳て以て屬國となさんとす茲に於てか明治十七年併に十九年の變亂ありたり僕思へらく彼の頑民の我お無禮を加ふるの害は十七十九の兩年お止まらず之れより以後必ず又之れあらん僕之を知る故に茲に一策あり我の既に彼の頑民の暴舉をなす前年の難くならんを知る故に我の我義勇兵を以て之に當らしめんと欲す我義勇兵とい何ぞや之を多く昔の劍客者流お求め彼等をして豫じめ京城近傍お住せしめ平素の商ふお雜貨等を以てし而して異日若し變あり我公使館を襲ふ前年の如きあれば彼等の直に刃を提て京城を屠り頑民を追ひ徐に我政府に請ひ大使を派して問罪せしめ彼の暴舉を我お加ふ茲お三度之れ決して忽にす可からざる者となす然

れども朝鮮政府の元より之お償ふ可きの金力なし即ち止むを得ず之を我國の屬國と爲すお至て初めて甘心せん

轉再轉思を轉じて熟考せよ我既お朝鮮を得て屬國となしたればとて朝鮮の元と富國おあらず況んや魯西亞獨乙英國佛蘭斯及び支那等お大關係ある最も苦難の國なり且つ我一朝おして之の威を待たりとせば以上の諸強國恨を含み以て私かに智を彼に與へ我をして彼を支配するに苦ましめん故に僕思へらく朝鮮を得るの利あつて而して之を永く屬國となすの不利なり茲お於てか一策あり朝鮮を我屬國となすと同時お魯國お向て談判を開き朝鮮を以て北方の樺太と換へ且つ我れお五億萬圓を送れと云はん魯國の滿洲皆な東洋に注ぐの今日なれば必ず喜て之を諾せん即ち我の樺太を復して猶お五億萬圓を得ば内地の陸軍海軍勢の擴張も思ふ様おならん即ち北海の鯨魚終に我大和男子の有のみ然れども或は又杞憂を抱くも

これ般身極て而して又國運の發達す可きなし中ふ就て事を知るの傑士の國運を進歩せしめんと欲し制を日本に學び度を歐米に模せり然るも國內の頑民の一時に蜂起して日本を恨らみ日本の終に我國二三大臣を陥し曳て以て屬國となさんとす茲に於てか明治十七年併に十九年の變亂ありたり僕思へらく彼の頑民の我に無禮を加ふるの言は十七十九の兩年お止まらず之れより以後必ず又之れあらん僕之を知る故に茲に一策あり我の既に彼の頑民の暴舉をなす前年の難くならんを知る故に我の我義勇兵を以て之に當らしめんと欲す我義勇兵とい何ぞや之を多く昔の劍客者流を求め彼等をして豫じめ京城近傍に住せしめ平素の商ふ雜貨等を以てし而して異日若し變あり我公使館を襲ふ前年の如きあれば彼等の直に刃を提て京城を屠り頑民を追ひ徐に我政府に請ひ大使を派して開罪せしめ彼の暴舉を我に加ふ茲に三度之れ決して忽にす可からざる者となす然

れども朝鮮政府の元より之を償ふ可きの金力なし即ち止むを得ず之を我國の屬國と爲すに至りて初めて甘心せん

轉再轉思を轉じて熟考せよ我既ち朝鮮を得て屬國となしたればとて朝鮮の元と富國あらず況んや魯西亞獨乙英國佛蘭斯及び支那等より大關係ある最も苦難の國なり且つ我一朝おして之の國を待たりとせば以上の諸強國恨を含み以て私かに智を彼に與へ我をして彼を支配するに苦ましめん故に僕思へらく朝鮮を得るの利あつて而して之を永く屬國となすの不利なり茲に於てか一策あり朝鮮を我屬國となすと同時ち魯國に向て談判を開き朝鮮を以て北方の韓太と換へ且つ我れに五億萬圓を送れと云はん魯國の滿洲皆な東洋に注ぐの今日なれば必ず喜て之を諾せん即ち我の韓太を復して猶や五億萬圓を得ば内地の陸軍海軍勢の擴張も思ふ様ふならん即ち北海の鯨魚終に我大和男子の有のみ然れども或は又杞憂を抱くも

のあらん魯國をして朝鮮を得せしめバ力を東洋お振ふの媒介者たらんか
 と然れども之の説たる元と世運を知らざる者の言のみ朝鮮の夫れ猶ほ美
 人の如し諸強國之を望で己の有となさんと欲する久し故に我にして彼を
 得ば我諸國は恨まる魯國にして之を有とせば彼又諸國お恨まれん即ち魯
 人の威を東洋お振ふんと欲して而して却て目的を失する者あらん何を恐
 れて魯軍飛來ると云ふか兒童の考ふだも此の如きあらざるべし
 言終て一座寂然たり蓋し壯快も亦極まる者か居士獨り曰く宜哉く余又
 聊の思ふ所あり請ふ他日之を語らんと又小青女史を顧みて曰く二客の言
 ふ所頗ぶる奇なり唯恨らくの邦語汝の耳お通せざる事を然れども汝の又
 二億の金を以て如何なる所致を爲すか試に之を述べよ
 小青女史の日本に生れて終ふ未だ邦語を解せず往對論辨必ず英語を以て
 す此時徐に辞を開て曰く妾不幸おして日本を去る事久し爲め未だ邦語

を解せず從て今二君の二億萬圓に對する希望を聞くを得ず遺憾の至りな
 り然れども希望にも亦自ら男女の別あり二君既お男子の望を述べ妾の即
 ち婦人殊も慈善の人の本務殊も女子の徳を現すものなりと云ふ旨を以て
 語らん即ち慈善主義の學校病院養育院育兒院併に又圖書展覽所訴訟取扱
 所等を設けするものあり而して又其維持の爲めに五十方圓を以て米英國の
 鐵道株を買ひ置く可し扱以上數様のもの日本國各府縣殊も沖繩北海道
 等お至る迄一縣下お必ず一機關設立す而して其學校の小學として尋常科
 の間の男女を共お學べしめ高等科に至れば其席を異おせしむ病院の男院
 女院に分ち女院中又産科のために一分院をなさしめ分娩者の茲お安して
 分娩せしむ又貧にして生兒を養ふ能はざるもの即ち育兒院に入れしめ
 保母を以て之を養育す其母保母たらんと欲する者の其意お從はしむ而し
 て生兒お母より育兒院中の養稚園お學べしめ夫れより小學お入れ普通

のあらん魯國をして朝鮮を得せしめバ力を東洋お振ふの媒介者たらんか
 と然れども之の説たる元と世運を知らざる者の言のみ朝鮮の夫れ猶ほ美
 人の如し諸強國之を望で己の有となさんと欲する久し故に我にして彼を
 得ば我諸國も恨まる魯國にして之を有とせば彼又諸國も恨まれん即ち魯
 人の威を東洋お振ひんと欲して而して却て目的を失する者あらん何を恐
 れて魯軍飛來ると云ふか兒童の考おだも此の如きあらざるべし

言終て一座寂然たり蓋し壯快も亦極まる者か居士獨り曰く宜哉く余又
 聊の思ふ所あり請ふ他日之を語らんと又小青女史を顧みて曰く二客の言
 ふ所頗ぶる奇なり唯恨らくの邦語汝の耳お通ぜざる事を然れども汝の又
 二億の金を以て如何なる所致を爲すか試に之を述べよ

小青女史の日本に生れて終お未だ邦語を解せず往對論辨必ず英語を以て
 す此時徐に辞を開て曰く妾不幸おして日本を去る事久し爲めお未だ邦語

を解せず從て今二君の二億萬圓に對する希望を聞くを得ず遺憾の至りな
 り然れども希望にも亦自ら男女の別あり二君既お男子の望を述べ妾の即
 ち婦人殊も慈善の人の本務殊も女子の徳を現すものなりと云ふ旨を以て
 語らん即ち慈善主義の學校病院養育院育兒院併に又圖書展覽所訴訟取扱
 所等を設けするのあり而して又其維持の爲めに五十萬圓を以て米英國の
 鐵道株を買ひ置く可し扱以上數様のもの日本國各府縣殊も沖繩北海道
 等お至る迄一縣下お必ず一様宛設立す而して其學校の小學として尋常科
 の間の男女を共お學ばしめ高等科に至れば其席を異おせしむ病院の男院
 女院に分ち女院中又産科のために一分院をなさしめ分娩者の茲お安して
 分娩せしむ又貧にして生兒を養ふ能はざるもの即ち育兒院に入れしめ
 保母を以て之を養育す其母保母たらんと欲する者の其意お從はしむ而し
 て生兒六歳より育兒院中の養稚園お學ばしめ夫れより小學お入れ普通

の學力を脩業せしむ猶ほ各學校共卒業者の中あて優等の者二名の望ありて中學大學へも入學せしむ夫れより後と雖ども學事熱心おして後來望ある者へ洋行をも爲さしむべし又世の赤貧者の皆を養育院に入れしめ身体健壯の者に相當の職業を命ずべし其他圖書展覽所の世界各國の有用書を集め公衆の展覽お供し訴訟取扱所の世の法律に暗き者の爲めお設立し何れも薄謝を以て之を取扱ふべし勿論貧民の謝議を用せず又衣服の制の豫のしめ之を定め總て貸與す可し即ち其形ちの尋常日本人の着用する者お同じ唯少しく袖を圓形となし其色別の生兒幼稚園を卒業する迄は桃色小學校卒業迄は青色入院患者の水淺青養育院おては黄色となし其服を名ずけて何れも小青服と云ふ又以上何れの場所おても取扱の極めて丁寧にして醫士教師産婆等お殊に氣を附け厚き給料を以て良き者を試験の上採用す但し被救者より謝儀等を用せざるは無論の事なり但し他に慈善

の爲め物品或は飲食物(但し酒と煙草の謝斷す)を寄附せば之を相當お配分し其贈與者の學を新聞に廣告して好意を謝せん其他慈善の爲めは時々音樂會を開き又は演藝會を設け入場金の利潤を貯へ銀行者に支配せしめ若し天災地變等總て非常の出來事あれば直に之が救恤をなす可く或は戰爭お死去せる兵士の遺族を憐み若しくは其表忠建碑の事お使用す可し又別に東京お於て一大女學校を興し委自ら校長となつて生徒を養生し國家主義を以て之の基となし英佛の學理を以て之が主となし其他繪畫音樂裁縫家政等を教へ優美の淑女を養生し他日國家の爲めお干城たらん者お配す可し尙ほ以上の建築法等お就ては仔細の望あれども此は不日圖して以て諸君の覽お供せん

茲に於て五山人柳々子の兩客の覺へず膝を叩て曰く嗚呼望む所も人人異なる哉然れども女史小青君の望も亦宜からずや予をして女子たらしめば

望又之よ出でん扱最後お聞かんと欲する所の主人公の意見なり請ふ之より語れ

居士微笑して曰く余は多慾なり五山柳々君の望む所小青の欲する所を兼て之を行はんすと然れども猶ほ未だ飽ざる所あり然らば即ち何を以て欲する曰く一大貿易會社を興し名づけて大日本貿易大會社と言ひ全地球上お於て苟も開港場の有名なる地にい各一大支社を設け別に汽船帆前船等數百艘を製し世界を馳走して其各港に立寄り甲地の物品を乙の開港所なる支社に輸し乙支社より丙丙支社より丁と終に我大旭日の日章をして晝となく夜となく世界各所に散布せしめ其他數十の汽船の或は南洋お或は北洋お常に巡廻して無人の島嶼を發見せしむるもあり蠻人嶋を服征するもわらしめ而して其大會社の株金を地球の表面至る所の帝王皇族紳士等より募る可し嗚呼此策も亦可からずや呵々

忽にして一坐大に笑ふ五山人曰く居士の謀良の則ち良なり唯二億万圓を以て足れりと爲さざるを如何せん居士も亦笑て曰く元より諸君と余の云ふ所の悉く之れ小田原評議ならずや諸君若し諸君の希望を達せんとするか請ふ之を腦裏に叩け二億万金何ぞ必ずしも西土一霜婦の有のみならんか黄金の必ず勤むる所よ來る可し然るお近頃卑漢あり黄金の爲めよ外人を崇拜し奴となり僕となるも亦自ら甘ざる如し彼等の實に我國威を損する者なり我國權を傷づくる者なり妹小青幸に恩と義との區別を知り巨万金を吝まずして西人を驚せしお余の最も喜ぶ所なり聞く嚮の新條約斷行を唱ふる輩の説を見れば内地雜居の後の土地を彼も與へて利を専らふし身命を後に投じて幸福を計らんと欲する者頗る多かりしと噫彼輩の嘗て黄金を後を知て而して終に國家あるを知らざるお至る眞お支那人の如き乎支那人戦お望んで糧を敵國に致し以て己の利を計るありと咄々之を何とぞか

